

【会長挨拶】

「会長就任のご挨拶」

学友会会長 埜藤 眞純

会員の皆様にはご健勝のこととお喜び申し上げます。平素は学友会活動に格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

この度、浅学非才の私が学友会の「会長候補」として理事会から推薦され、5月26日の総会(京都)で第12代目会長(正会員会長では7代目)の信任を賜りました。会員の積年の夢でもあった4年制大学開学という意義深い年の会長職就任に改めて重責を感じ身の引き締まる思いがいたします。お引き受けしました上は、皆様方の期待に応えられるよう全力で頑張る所存でございます。まずは、正・準会員、賛助会員並びに学園関係者の方々にご報告させていただきます。

学友会の歴史は昭和3年の発足から間もなく80年を迎えます。その間には、母校の歩みに合わせ5度の名称変更を経て今ではおおよそ3,400名を抱える組織にまで成長しました。その役割は、会則にもありますように「学友同士の親睦と結束」と「母校の発展への協力と後援」であります。その精神は今日まで歴代の会長を初め役員諸兄や諸先輩方に脈々と引き継がれ、充実した運営組織の構築と事業を進めて来られました。心から敬意と感謝の意を表したいと思っております。

この度、京都医療科学大学の開学に合わせ学友会名称が「京都医療科学大学学友会」として総会承認されました。学友会の長年に亘る母校支援の取り組みが島津学園理事長を始め学園関係者の方々に理解され実現したことは明白です。新しく生まれ変わった喜びを卒業生一同共に分かち合いたいと思っております。

さて、新生した学友会として取り組むべき課題について考えてみたいと思っております。いみじくも高橋隆学長は「これまでの本学は職業教育学校の性格が強かったが4年制大学化を遂げると知の伝道として変身していく必要がある」と総会に於いて挨拶されました。

学友会では平成19・20年度の事業方針として「京都医療科学大学学友会」の名に相応しい事業の展開、4大卒生を暖かく迎えられる学友会への脱皮を図ること等を掲げさせていただきました。また、編入制度の早期実現、学友会執行部の若返りや学友会事務室の有効利用などにも取り組むたいと考えています。学友会事業の発展は会員の皆様のご協力、ご支援なくしては達成できません。

「新生学友会の創造」を目指し、寄せられた会員の声に耳を傾け、長期的観点より今後の学友会としてのあり方を考えていきたいと思っております。今迄以上に、会員各位の暖かいご支援、ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

また、この度2007年総会を成功裡に終えることができました。全国から総会に参加されました支部長、評論員並びに会員の皆様、総会の企画実行に協力を惜しまれなかった役員の皆様に心から敬意と感謝を申し上げます。また、広告掲載と総会参加に応じていただきました企業の皆様には紙面を借りて厚くお礼申し上げます。

最後になりましたが、会員の皆様はお聞き及びのこととは思いますが、2001年の松本総会から3

期 6 年間会長職を務められた石山前会長は体調不良を理由に本総会を最後に退任される決意をなされ会務の引継ぎを進められておりました。しかし今年になって体調を大きく崩され集中的な加療により大学開学式を始め、本総会への出席も叶いませんでした。前会長のお気持ちを察すると余りあるものがあります。

ここで石山前会長の業績を振り返りますと、私たちの念願でありました 4 年制大学への改組転換が決まり 2007 年 4 月に 4 年制大学開学が実現することを受け、先頭に立って募金活動を展開され相応の成果を上げることができました。また、就職懇談会、学園東学友会相談コーナーなど母校への支援活動にも積極的に行動されました。このような母校への支援活動が評価され学内に学友会専用事務室を用意していただくことができました。また、支部総会には積極的に出席され会員相互の親睦と結束を深められました。このような石山前会長の学友会への功績を称えると共に順調なご回復をお祈りしたいと思います。

以上

* 通巻 184 号 2007 年 7 月 10 日発行(H19-No.2)より